

令和5事務年度 租税条約等に基づく情報交換事績の概要

I 租税条約等に基づく情報交換事績の概要

(参考) 国際的な脱税及び租税回避への関心の高まり

II 租税条約等に基づく情報交換の実施状況

1 自動的情報交換

(1) CRSに基づく非居住者の金融口座情報（CRS情報）の交換

(2) 国別報告書（CbCR）の交換

(3) 法定調書情報の交換

2 自発的情報交換

3 要請に基づく情報交換

III 自動的情報交換に関する最近の動向

非居住者に係る暗号資産等取引情報の自動的交換～CARFの概要～

別紙1 我が国の租税条約ネットワーク

別紙2 CRSに基づく自動的情報交換の実施時期に関するコミット状況

I 租税条約等に基づく情報交換事績の概要

- ▶ 経済取引のグローバル化の進展に伴い、国境を越える取引が恒常的に行われ、資産の保有・運用の形態も複雑化・多様化する中、国税庁では、適正・公平な課税・徴収の実現のため、また、国際的な脱税及び租税回避に対処するため、租税条約等の規定に基づく外国税務当局との情報交換を積極的に実施しています。

			令和4事務年度	令和5事務年度	対前事務年度比
自動的 情報交換	CRS情報※1	外国からの受領件数	2,526,181	2,455,288	97.19%
		我が国からの提供件数	532,037	510,782	96.00%
	CbCR※2	外国からの受領件数	2,237	2,315	103.49%
		我が国からの提供件数	866	927	107.04%
	法定調書情報※3	外国からの受領件数	77,103	130,483	169.23%
		我が国からの提供件数	750,791	750,646	99.98%
自発的情報交換※4		外国からの受領件数	812	756	93.10%
		我が国からの提供件数	131	88	67.18%
要請に基づく情報交換※5		我が国からの要請件数	641	737	114.98%
		外国からの要請件数	252	202	80.16%

※1 共通報告基準（CRS: Common Reporting Standard）に基づく非居住者の金融口座情報を外国税務当局と定期的に交換しています。

※2 多国籍企業グループの国ごとの活動状況に関する国別報告書（CbCR: Country by Country Report）を外国税務当局と定期的に交換しています。

※3 法定調書により把握した非居住者への支払（利息、配当、不動産賃借料等）についての情報を外国税務当局と交換しています。

※4 国際協力の観点から、自国納税者に対する調査等の際に入手した情報で外国税務当局にとって有益と認められる情報を自発的に提供しています。

※5 個別の納税者に対する調査において、国内で入手できる情報だけでは事実関係を十分に解明できない場合に、必要な情報の収集・提供を外国税務当局に要請しています。

(参考) 国際的な脱税及び租税回避への関心の高まり

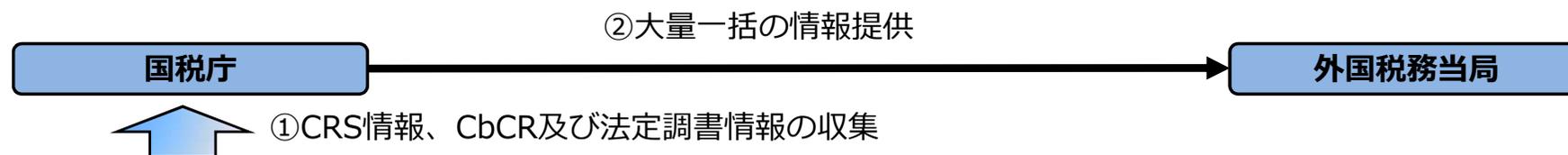
- 近年、個人投資家の海外投資や企業の海外取引が増加するなど、年々経済社会の国際化が進展しています。このような中、OECDが策定・公表した共通報告基準（CRS: Common Reporting Standard）に基づく非居住者の金融口座情報の交換や、税源浸食と利益移転（BEPS: Base Erosion and Profit Shifting）プロジェクトの進展などにより、富裕層や海外取引のある企業による海外への資産隠しのほか、各国の税制の違い等を利用して税負担を軽減する等の国際的な脱税及び租税回避に対して、関心が大きく高まっている状況にあります。
- G20やOECDにおいては、これらの問題に対処するため、各国税務当局間での協力・連携を一層推進していくこととしています。
- こうした状況を踏まえ、国税庁としては、国際的な動きも十分に視野に入れて適正・公平な課税を実現していくことが、国民からの信頼の確保につながるものと考えており、租税条約等に基づく外国税務当局との情報交換を通じて、国際的な脱税及び租税回避の把握や防止に取り組んでいきます。

- 租税条約等に基づく情報交換とは、納税者の取引などの税に関する情報を税務当局間で互いに提供する仕組みです。
- 租税条約等に基づく情報交換には、「自動的情報交換」、「自発的情報交換」及び「要請に基づく情報交換」の3つの類型があり、情報交換事績もこれらの類型に分けています。これらの類型に関する詳細は、国税庁ホームページ「租税条約等に基づく情報交換」 (<https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/kokusai/eoi/index.htm>) をご覧ください。
- 情報交換の重要性に関する世界的認識が高まる中、我が国の情報交換ネットワークは、155か国・地域に拡大しています。我が国の情報交換ネットワークの現状については、別紙1をご参照ください。

II 租税条約等に基づく情報交換の実施状況

1 自動的情報交換

- 国際的な脱税や租税回避行為に対処するため、CRSに基づく非居住者の金融口座情報（CRS情報）や多国籍企業グループの国ごとの活動状況に関する国別報告書（CbCR: Country by Country Report）、法定調書により把握した非居住者への支払についての情報（法定調書情報）を定期的に交換しています。



- 諸外国の税務当局から受領するCRS情報や法定調書情報等は、国外送金等調書・国外財産調書といった各種調書や既に保有している他の資料情報等との分析を通じて、課税上問題があると見込まれる資産や所得の把握などに有効です。また、徴収の分野においても、受領した情報を活用し、外国税務当局への徴収共助の要請等を行っています。

- CRS情報・CbCRについての詳細は以下をご覧ください。

共通報告基準（CRS）に基づく自動的情報交換に関する情報（「CRSコーナー」）

<https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/kokusai/crs/index.htm>

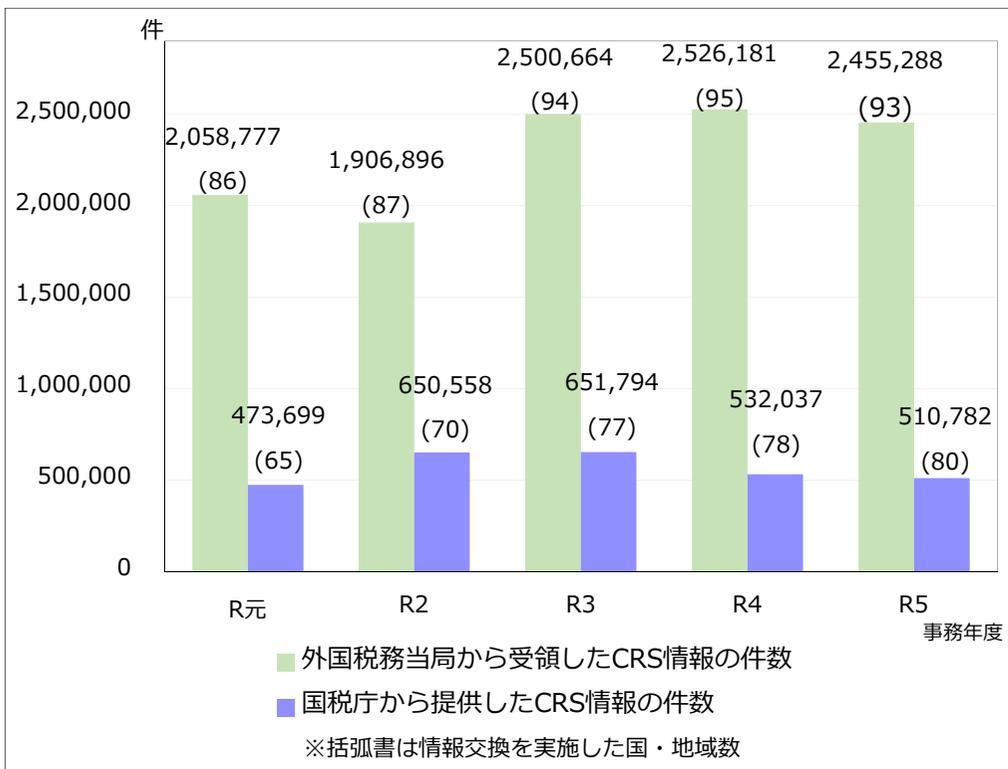
国別報告事項（CbCR）の自動的情報交換等に関する情報

<https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/kokusai/eoi/001.htm>

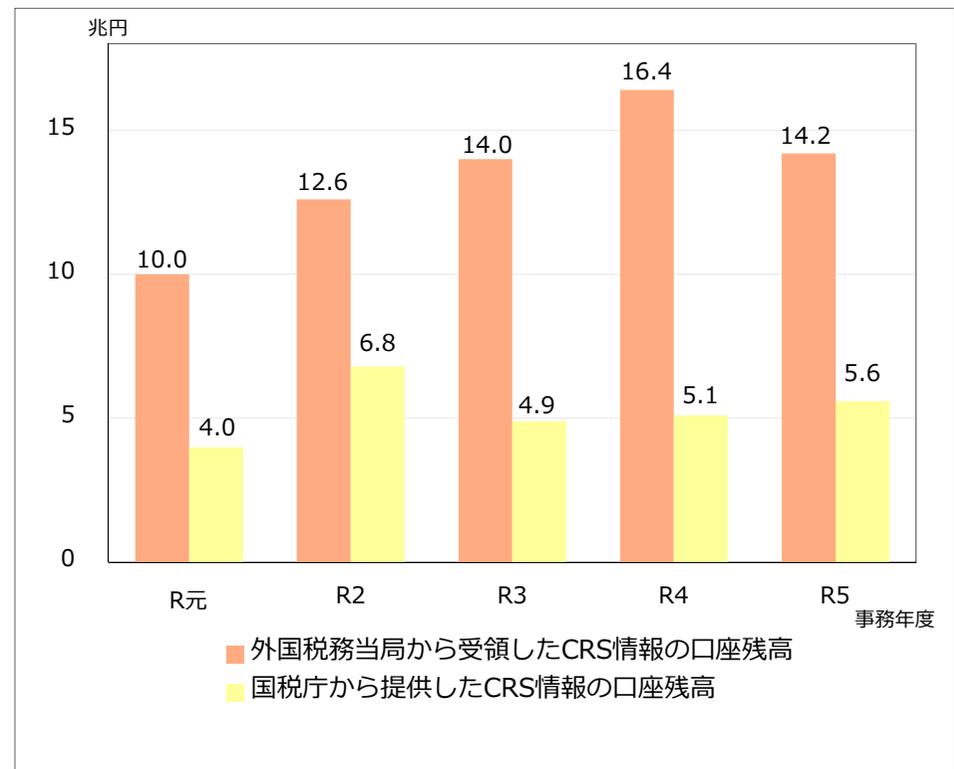
(1) CRSに基づく非居住者の金融口座情報（CRS情報）の交換

- CRSは、外国の金融機関等を利用した国際的な脱税や租税回避に対処するため、非居住者の金融口座情報（氏名・住所・口座残高など）を税務当局間で定期的に交換するための国際基準として、OECDが策定・公表したもので、我が国もこの枠組みに基づき、外国税務当局との間で情報交換を実施しています。
- 令和5事務年度は、日本居住者のCRS情報約246万件（個人口座約243万件、同残高約8.2兆円、法人口座約3万件、同残高約6.0兆円）を93か国・地域の外国税務当局から受領し、外国居住者のCRS情報約51万件（個人口座約49万件、同残高約1.1兆円、法人口座約2万件、同残高約4.5兆円）を80か国・地域の外国税務当局に提供しました。

グラフ1 CRS情報の交換件数の推移



グラフ2 交換したCRS情報の口座残高の推移



CRS情報の地域別 受領・提供 口座数

(令和5事務年度)

欧州・NIS諸国 (47)

アイスランド	(英) ガーンジー	キプロス	スロベニア	フィンランド	モルドバ
アイルランド	(英) ジブラルタル	ギリシャ	チェコ	フランス	ラトビア
アゼルバイジャン	(英) ジャージー	クロアチア	デンマーク	ブルガリア	リトアニア
アルバニア	(英) マン島	サンマリノ	(D) グリーンランド	ベルギー	リヒテンシュタイン
アンドラ	エストニア	スイス	(D) フェロー諸島	ポーランド	ルーマニア
イタリア	オーストリア	スウェーデン	ドイツ	ポルトガル	ルクセンブルク
ウクライナ	オランダ	スペイン	ノルウェー	マルタ	ロシア
英国	カザフスタン	スロバキア	ハンガリー	モナコ	

北米・中南米 (30)

アルゼンチン
アンティグア・バーブーダ
ウルグアイ
(英) アンギラ
(英) 英領バージン諸島
(英) ケイマン諸島
(英) ターコス・カイコス諸島
(英) バミューダ
(英) モンセラット
エクアドル
(蘭) アルバ
(蘭) キュラソー
(蘭) セントマーティン
カナダ
グレナダ
コスタリカ
コロンビア
ジャマイカ
セントクリストファー・ネイビス
セントビンセント及びグレナディーン諸島
セントルシア
チリ
ドミニカ国
パナマ
バハマ
バルバドス
ブラジル
バリーズ
ペルー
メキシコ

欧州・NIS諸国

受領: 308,300 (42)
提供: 66,389 (40)

中東・アフリカ

受領: 58,876 (11)
提供: 4,252 (8)

中東・アフリカ (15)

アラブ首長国連邦
イスラエル
オマーン
ガーナ
カタール
クウェート
ケニア
サウジアラビア
セーシェル
トルコ
ナイジェリア
バーレーン
南アフリカ共和国
モーリシャス
レバノン

北米・中南米

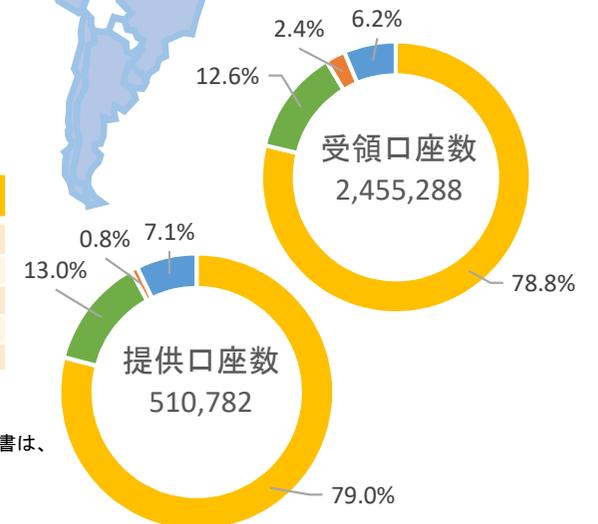
受領: 153,308 (21)
提供: 36,445 (18)

アジア・大洋州

受領: 1,934,804 (19)
提供: 403,696 (14)

アジア・大洋州 (21)

インド	シンガポール	(中) 香港	バヌアツ	モルディブ
インドネシア	タイ	(中) マカオ	(仏) ニューカレドニア	
オーストラリア	大韓民国	ナウル	ブルネイ・ダルサラーム	
クック諸島	台湾	ニュージーランド	マーシャル諸島	
サモア	中華人民共和国	パキスタン	マレーシア	



(注) エリア表示欄の赤字は、令和7年1月1日時点のCRS情報の交換が可能な国・地域数、「受領」「提供」欄の括弧書は、令和5事務年度に情報交換を実施した国・地域数を示す。

(参考計表) CRS情報の交換件数(地域別)の推移

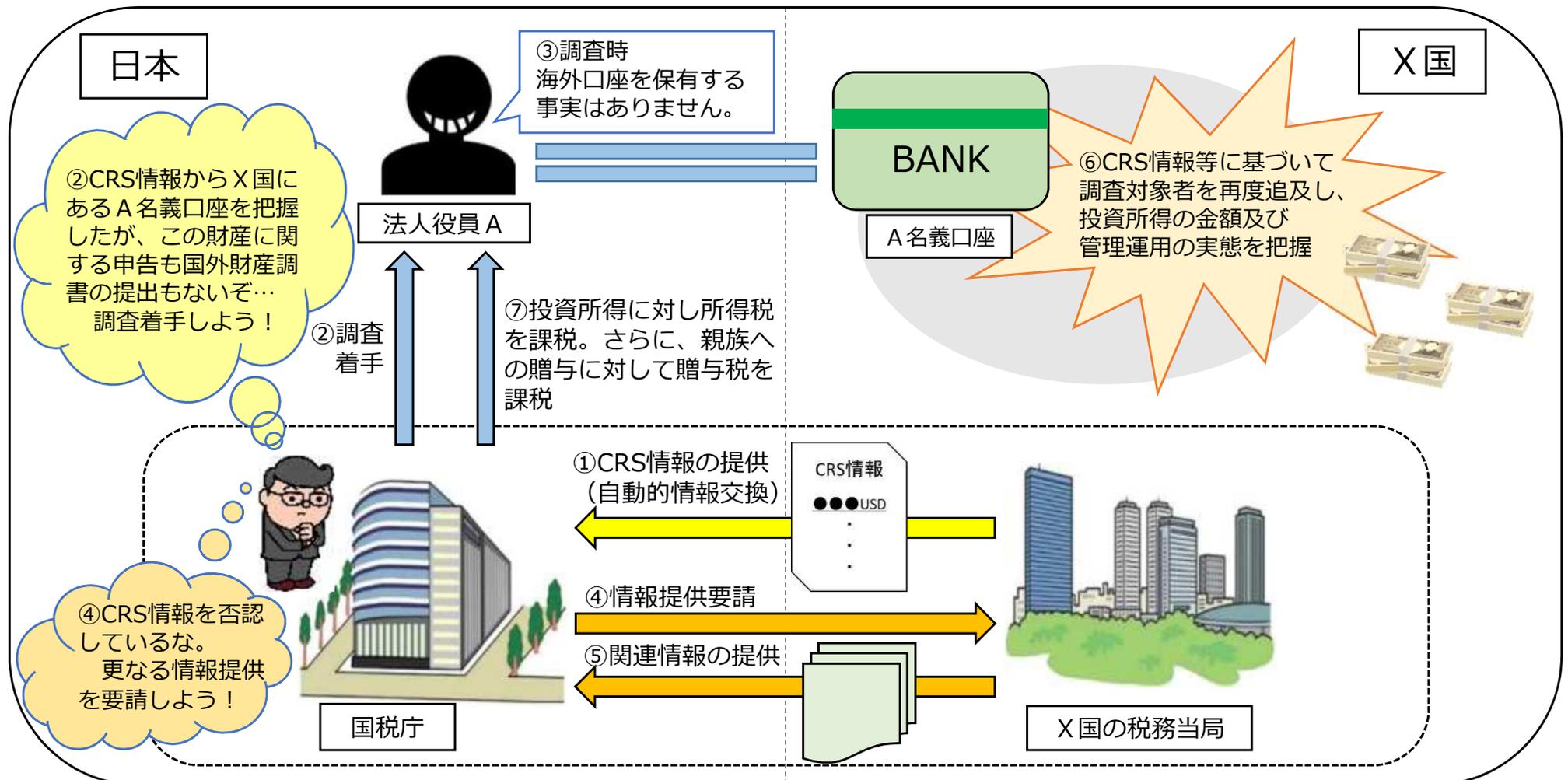
		令和元事務年度		令和2事務年度		令和3事務年度		令和4事務年度		令和5事務年度	
		国・地域数	口座数								
外国 から受領	アジア・ 大洋州	15	1,630,421	16	1,473,200	17	1,644,896	18	1,794,550	19	1,934,804
	北米・ 中南米	19	96,288	19	117,291	20	216,480	22	156,707	21	153,308
	欧州・ NIS諸国	41	299,313	40	313,587	43	325,978	42	294,474	42	308,300
	中東・ アフリカ	11	32,755	12	2,818	14	313,310	13	280,450	11	58,876
	合計	86	2,058,777	87	1,906,896	94	2,500,664	95	2,526,181	93	2,455,288
我が国 から提供	アジア・ 大洋州	11	373,870	12	529,864	12	536,650	13	402,294	14	403,696
	北米・ 中南米	11	33,526	13	43,354	16	40,744	17	44,481	18	36,445
	欧州・ NIS諸国	38	64,129	39	73,074	42	67,976	40	78,060	40	66,389
	中東・ アフリカ	5	2,174	6	4,266	7	6,424	8	7,202	8	4,252
	合計	65	473,699	70	650,558	77	651,794	78	532,037	80	510,782

受領したCRS情報及び要請に基づく情報交換の活用例

受領したCRS情報から、法人役員AがX国にある銀行口座に多額の預金を保有しながら国外財産調書を提出せず、確定申告にも当該預金に関する利子等の所得を反映していない事実を把握したため、調査に着手した。

法人役員Aは、調査においても国外に預金を保有する事実を認めなかったことから、事実確認のためにX国の税務当局に対して当該預金口座の運用状況等に関する情報提供の要請を行い、関連する情報を入手した。

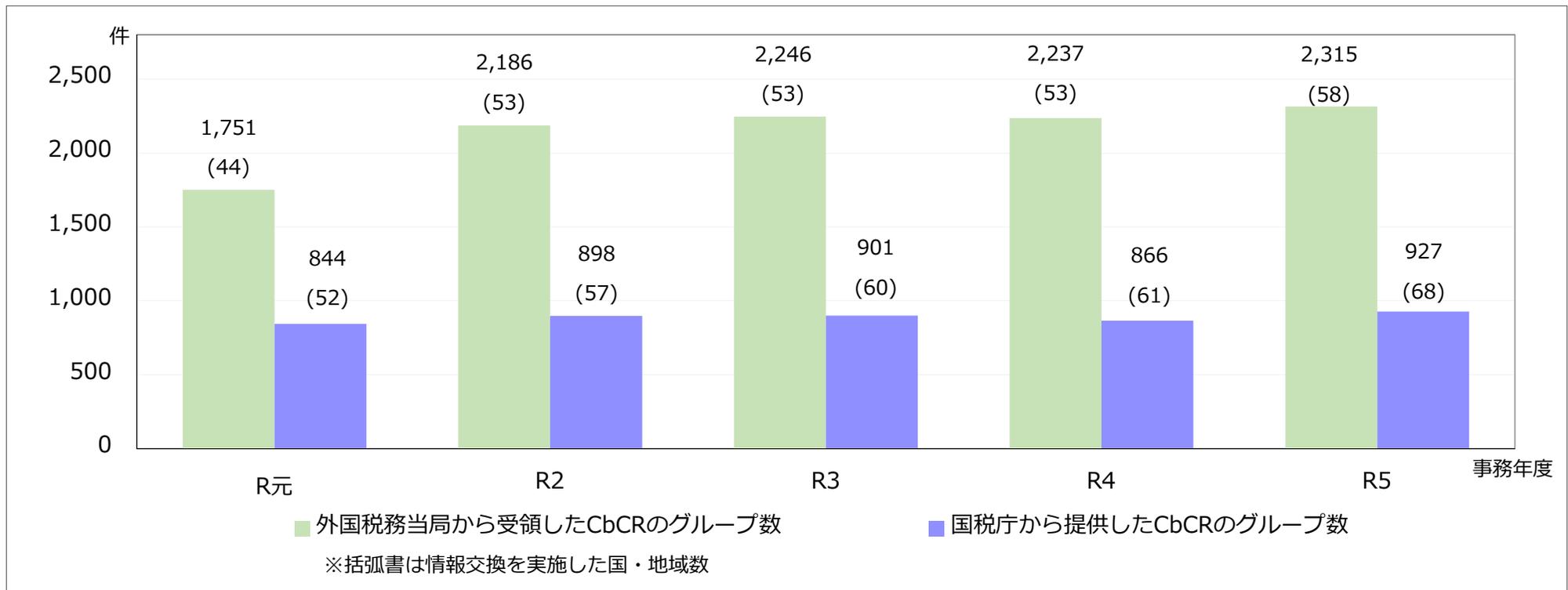
受領した情報を基に調査対象者を追及したところ、実際には当該口座の運用によって多額の利益が発生していたものの、この所得について確定申告を行っていなかったことを認めた。さらに、預金の一部について親族に贈与していた事実が確認されたため、当該親族に贈与税を課した。



(2) 国別報告書（CbCR）の交換

- CbCRの交換は、BEPSプロジェクトの勧告（行動13「多国籍企業情報の文書化」）に沿って実施されています。
- CbCRには、多国籍企業グループの事業が行われる国・地域ごとの収入金額や納付税額の配分状況等に関する情報が含まれ、各国税務当局は、移転価格リスク評価に使用しています。
- 令和5事務年度は、外国に最終親会社等がある2,315グループのCbCRを58か国・地域の外国税務当局から受領し、日本に最終親会社等がある927グループのCbCRを68か国・地域に提供しました。

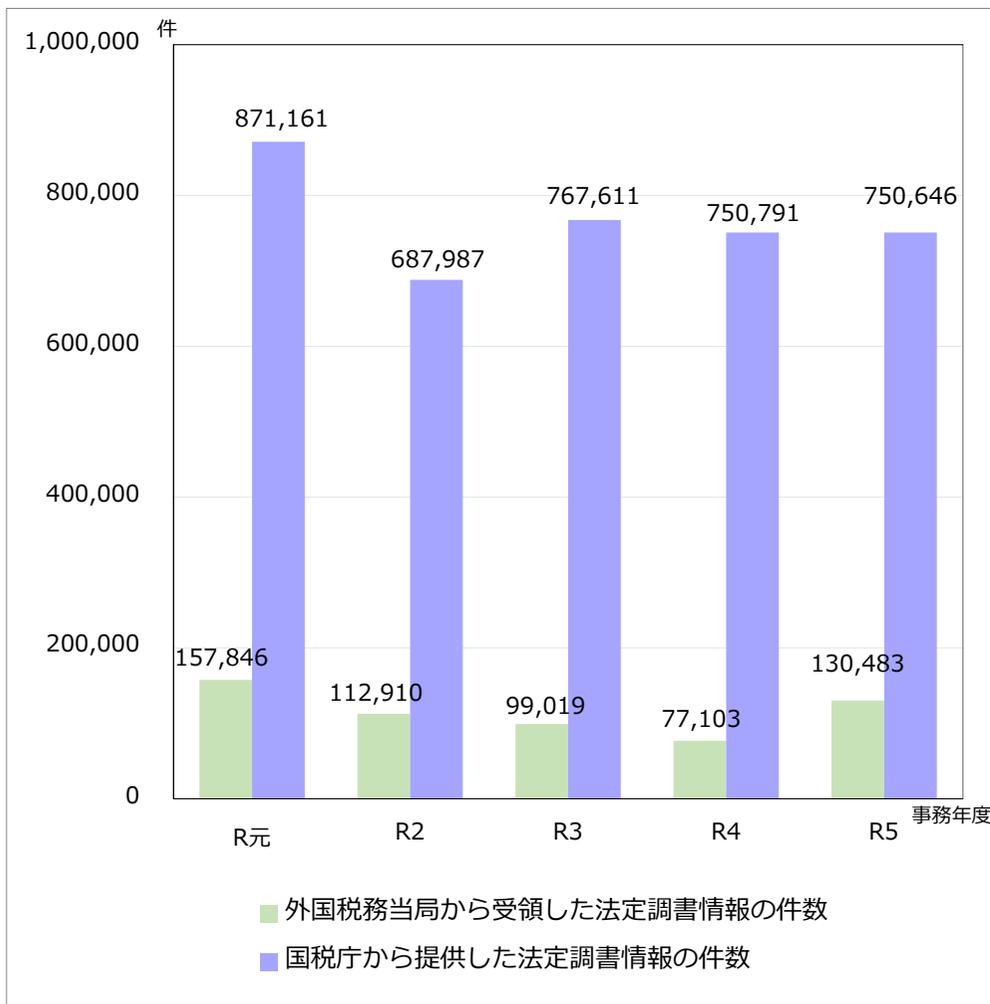
グラフ3 CbCRの交換件数の推移



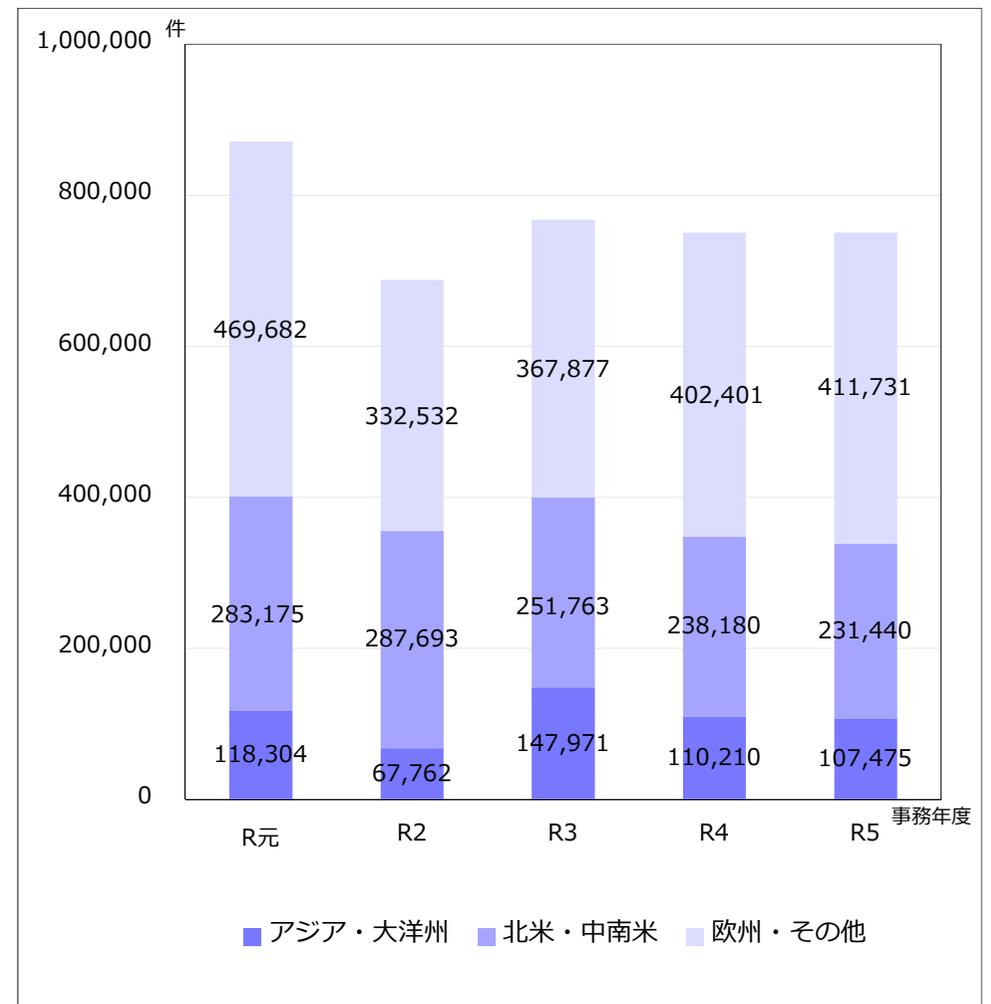
(3) 法定調書情報の交換

- 法定調書により把握した非居住者への支払（利子、配当、不動産賃借料、無形資産の使用料、給与・報酬、株式の譲受対価等）についての情報を税務当局間で交換しています。

グラフ4 法定調書情報の交換件数の推移

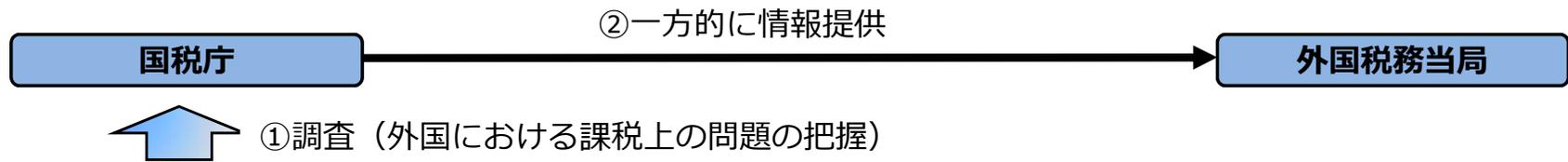


グラフ5 国税庁から提供した法定調書情報の件数（地域別）の推移

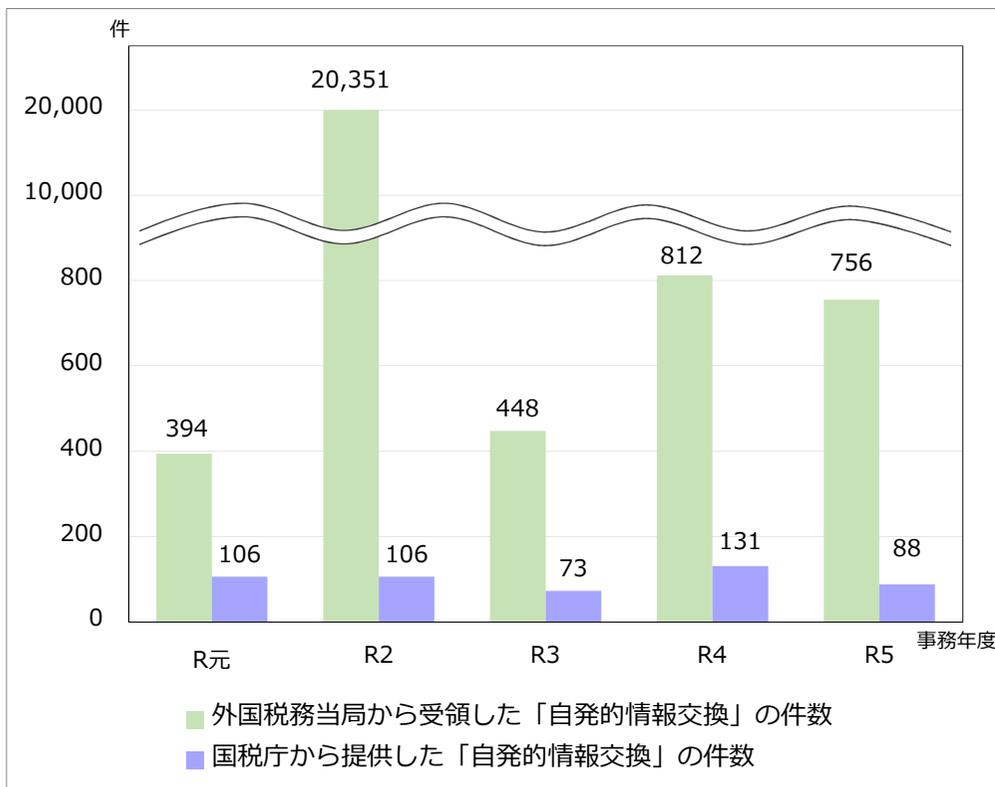


2 自発的情報交換

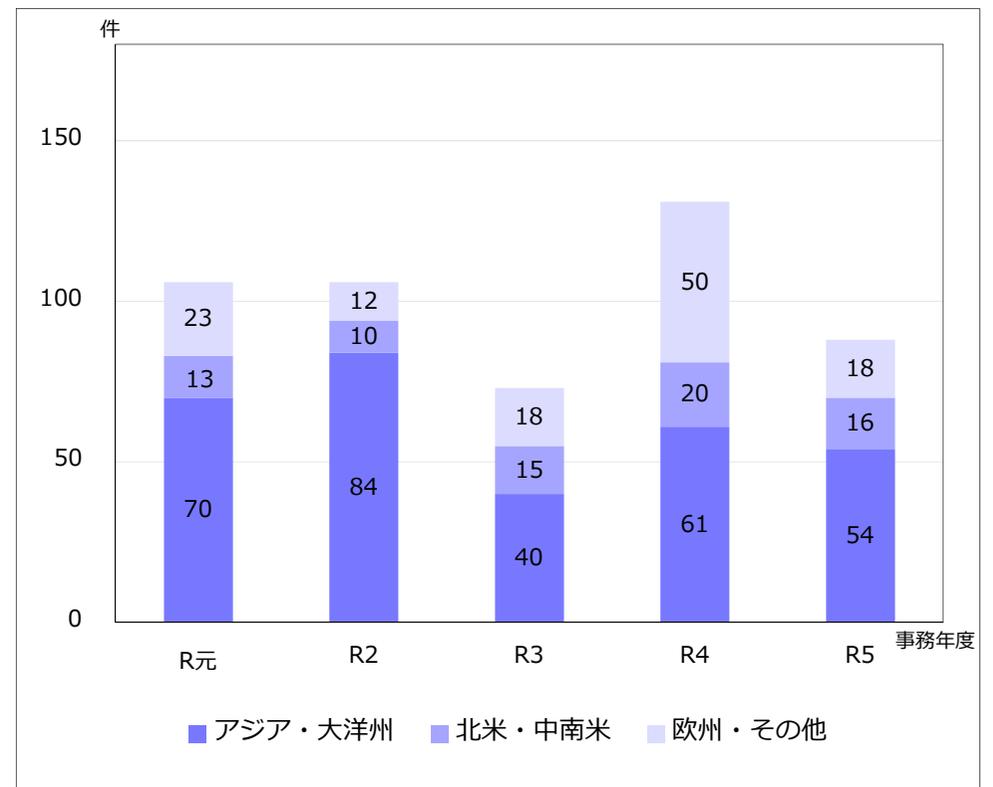
- 国際協力の観点から、自国の納税者に対する調査等の際に入手した情報で、外国税務当局にとって有益と認められる情報を、自発的に提供しています。



グラフ6 「自発的情報交換」の交換件数の推移

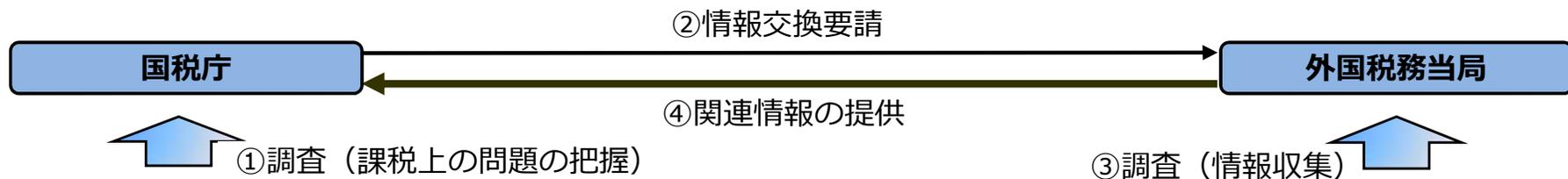


グラフ7 国税庁から提供した「自発的情報交換」の件数（地域別）の推移

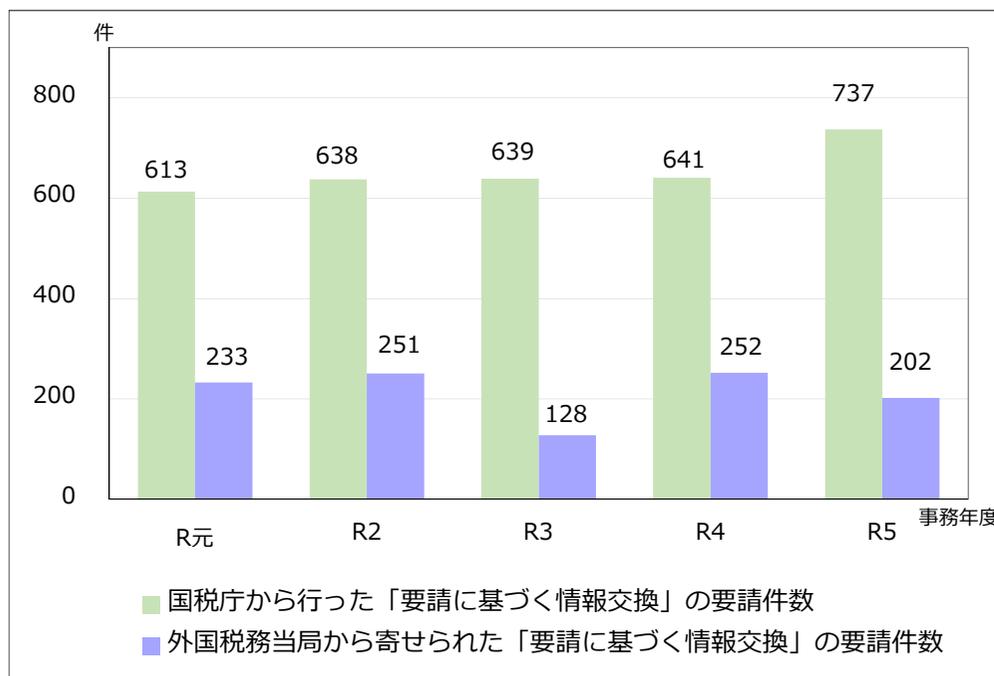


3 要請に基づく情報交換

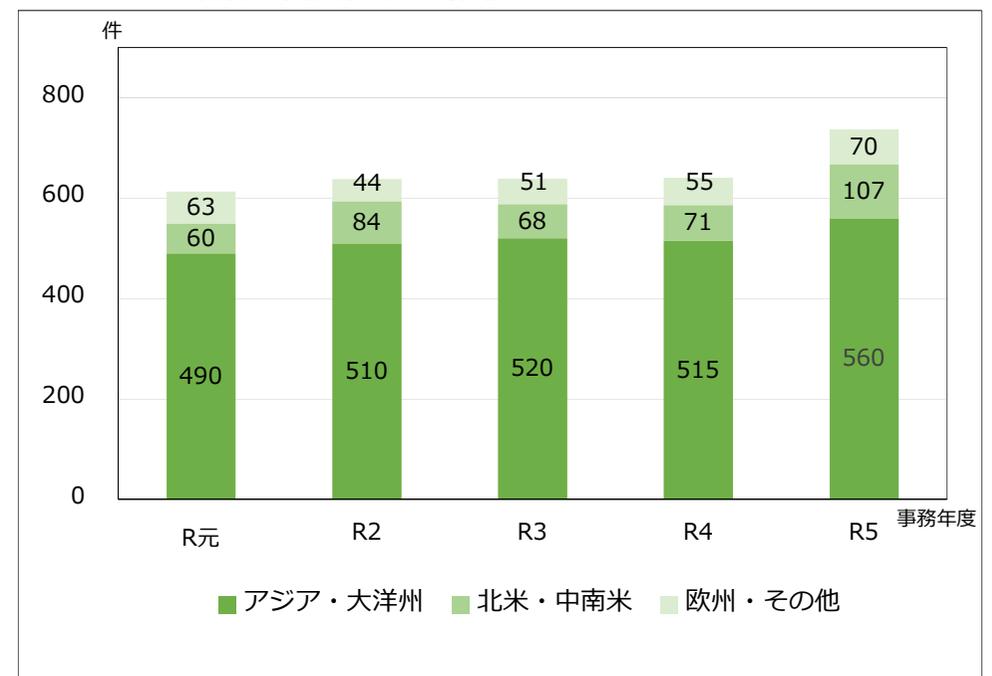
- 個別の納税者に対する調査において、国内で入手できる情報だけでは事実関係を十分に解明できない場合に、必要な情報の収集・提供を外国税務当局に要請しています。国際的な取引の実態や海外資産の保有・運用の状況を解明する有効な手段となっています。
- 外国税務当局から、海外法人の決算書、契約書、インボイス、銀行預金口座取引明細書などのほか、外国税務当局の調査担当者が取引担当者に直接ヒアリングして得た情報を入手しています。



グラフ8 「要請に基づく情報交換」の要請件数の推移



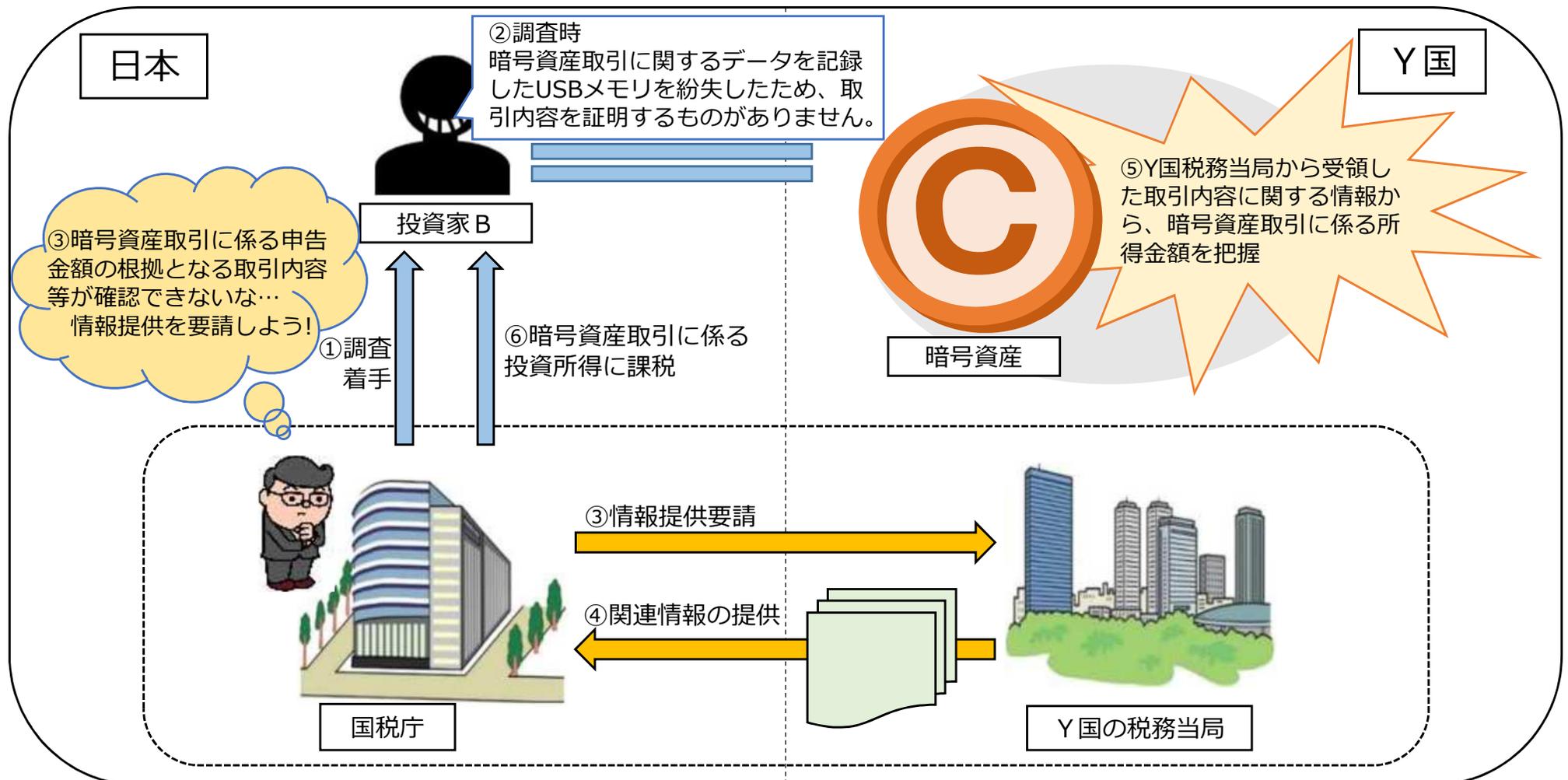
グラフ9 国税庁から行った「要請に基づく情報交換」の要請件数（地域別）の推移



要請に基づく情報交換の活用例

確定申告において暗号資産取引に係る雑所得を申告していた個人投資家Bの調査に着手したものの、投資家Bは暗号資産取引に係るデータを保存していたUSBメモリを紛失したため、取引データの復元ができないと主張し、申告金額の基となった暗号資産取引内容等の確認ができなかった。

取引内容等の解明のため、Y国の税務当局に対して情報提供要請を行ったところ、取引内容に関する資料を受領できたため、当該資料を基に多額の申告漏れの事実を把握した。

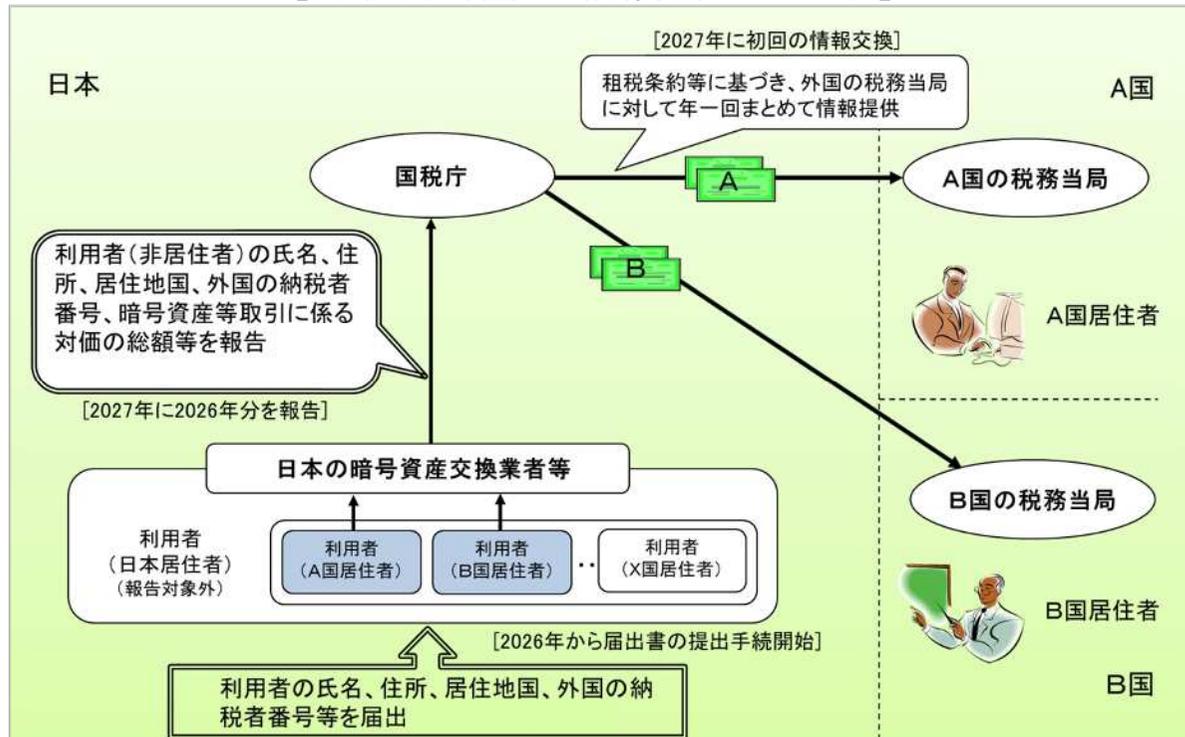


Ⅲ 自動的情報交換に関する最近の動向

非居住者に係る暗号資産等取引情報の自動的交換～CARFの概要～

- 暗号資産等を利用した脱税等のリスクが顕在化したことを受け、2022年（令和4年）、OECDにおいて、各国の税務当局が自国の暗号資産交換業者等から報告される非居住者の暗号資産等取引情報を租税条約等に基づいて税務当局間で自動的に交換するための国際基準として「暗号資産等報告枠組み（CARF：Crypto-Asset Reporting Framework）」が策定され、承認・公表されました。
- 2023年（令和5年）、G20ニューデリー首脳宣言において、「税の透明性と情報交換に関するグローバル・フォーラム（171か国・地域が参加するOECDの関連組織）」に対し、2027年（令和9年）の情報交換開始を原則とするCARF実施スケジュールの検討を要請しました。
- このような経緯を経て、各国はCARFを実施するための国内法制を整備する段階に移行することとなり、我が国においては、令和6年度税制改正において、CARFに従った情報交換を実施する観点から、非居住者に係る暗号資産等取引情報の自動的情報交換のための報告制度が整備されました。
- 本制度の施行に当たっては、暗号資産交換業者等の準備期間を考慮して、我が国においては、2026年（令和8年）から本制度が施行され、2027年（令和9年）に2026年分の報告を暗号資産交換業者等から受け、税務当局間の情報交換を開始することとしています。

【日本から外国への情報提供のイメージ】



【報告制度】

1. 暗号資産等取引実施者は、その者の居住地国等の情報を記載した届出書を暗号資産交換業者等に提出
2. 暗号資産交換業者等は、一定の条約相手国を居住地国とする暗号資産等取引実施者の取引情報等を国税庁に報告
3. 報告制度の実効性を確保するため、以下の事項を整備
 - (1) 暗号資産等取引実施者の居住地国の特定に関する記録の作成・保存義務
 - (2) 罰則（届出書の不提出、暗号資産交換業者等の不報告等）等

我が国の租税条約ネットワーク

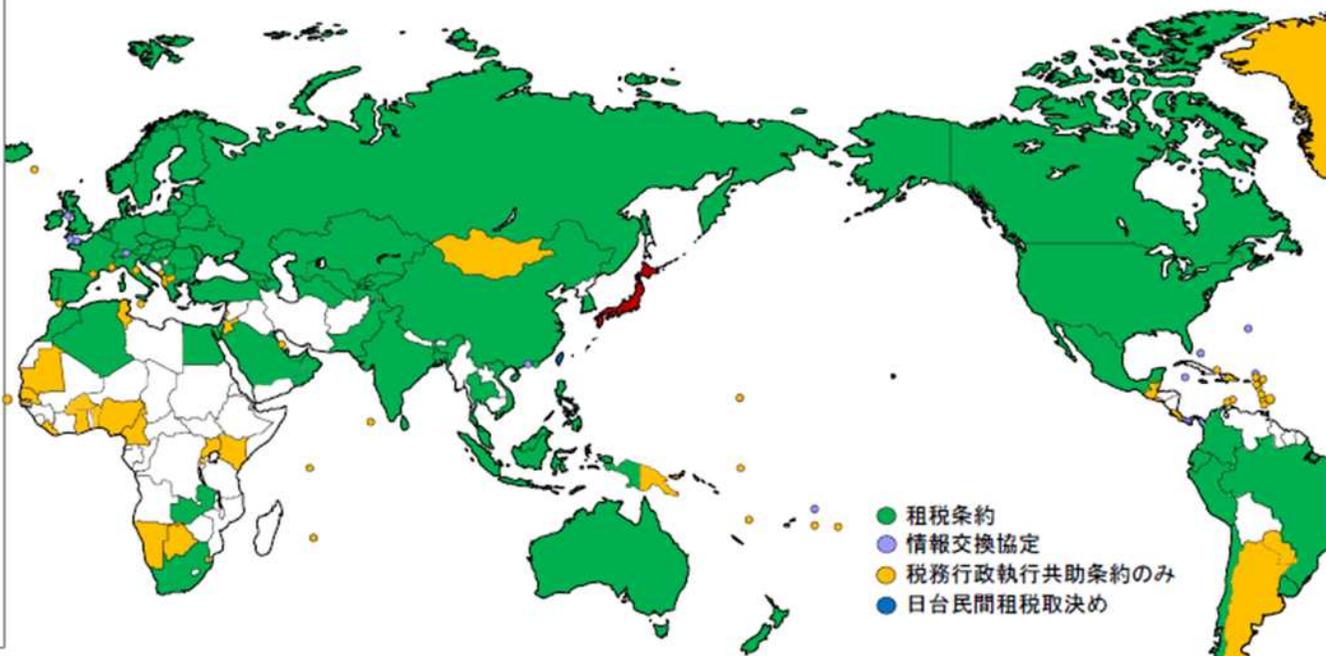
《87 条約等、155 か国・地域適用／2025 年 1 月 1 日現在》(注1)(注2)

財務省

欧州 (46)	
アイスランド	ドイツ
アイルランド	ノルウェー
イギリス	ハンガリー
イタリア	フィンランド
エストニア	フランス
オーストリア	ブルガリア
オランダ	ベルギー
ギリシャ	ポルトガル
クロアチア	ポーランド
スイス	ラトビア
スウェーデン	リトアニア
スペイン	ルクセンブルク
スロバキア	ルーマニア
スロベニア	ガーンジー(※)
セルビア	ジャージーン(※)
チェコ	マン島(※)
デンマーク	北アイルランド(※)
(執行共助条約のみ)	
アルバニア	ジブラルタル
アンドラ	フェロー諸島
北マケドニア	ボスニア・ヘルツェゴビナ
キプロス	マルタ
グリーンランド	モナコ
サンマリノ	モンテネグロ

ロシア・NIS諸国 (12)			
アゼルバイジャン	カザフスタン	ジョージア	ベラルーシ
アルメニア	キルギス	タジキスタン	モルドバ
ウクライナ		トルクメニスタン	ロシア

北米・中南米 (35)
アメリカ
ウルグアイ
エクアドル
カナダ
コロンビア
ジャマイカ
チリ
ブラジル
ペルー
メキシコ
ケイマン諸島(※)
英領バージン諸島(※)
パナマ(※)
バハマ(※)
バミューダ(※)
(執行共助条約のみ)
アルゼンチン
アルバ
アンギラ
アンティグア・バーブーダ
エルサルバドル
キュラソー
グアテマラ
グレナダ
コスタリカ
セントクリストファー・ネイビス
セントトマー・セント・ビンセント諸島
セントマーティン
セントルシア
ターコス・カイコス諸島
ドミニカ共和国
ドミニカ国
パラグアイ
バルバドス
ペリーズ
モンセラット



アフリカ (23)			
アルジェリア	ザンビア	モロッコ	
エジプト	南アフリカ		
(執行共助条約のみ)			
ウガンダ	ケニア	ナミビア	モーリタニア
エスワティニ	セーシェル	ブルキナファソ	リベリア
ガーナ	セネガル	ベナン	ルワンダ
カボベルデ	チュニジア	ボツワナ	
カメルーン	ナイジェリア	モリシャス	

中東 (10)	
アラブ首長国連邦	クウェート
イスラエル	サウジアラビア
オマーン	トルコ
カタール	
(執行共助条約のみ)	
バーレーン	レバノン
ヨルダン	

アジア・大洋州 (29)				
インド	シンガポール	ニュージーランド	フィリピン	マレーシア
インドネシア	スリランカ	パキスタン	ブルネイ	サモア(※)
オーストラリア	タイ	バングラデシュ	ベトナム	ヌカオ(※)
韓国	中国	フィジー	香港	台湾(注3)
(執行共助条約のみ)				
クック諸島	ニウエ	バヌアツ	マーシャル諸島	モンゴル
ナウル	ニュージーランド	バリアン諸島	モルディブ	

(注1) 税務行政執行共助条約が多数国間条約であること、及び、旧ソ連・旧チェコスロバキアとの条約が複数国へ承継されていることから、条約等の数と国・地域数が一致しない。
 (注2) 条約等の数及び国・地域数の内訳は以下のとおり。
 ・租税条約(二重課税の除去並びに脱税及び租税回避の防止を主たる内容とする条約): 74 本、81 か国・地域
 ・情報交換協定(租税に関する情報交換を主たる内容とする条約): 11 本、11 か国・地域(図中、(※)で表示)
 ・税務行政執行共助条約: 締約国は我が国を除いて 124 か国(図中、国名に下線)。適用拡張により 142 か国・地域に適用(図中、適用拡張地域名に点線)。このうち我が国と二国間条約を締結していない国・地域は 62 か国・地域。
 ・日台民間租税取決め: 1 本、1 地域
 (注3) 台湾については、公益財団法人交流協会(日本側)と亜東関係協会(台湾側)との間の民間租税取決め及びその内容を日本国内で実施するための法令によって、全体として租税条約に相当する枠組みを構築(現在、両協会は、公益財団法人日本台湾交流協会(日本側)及び台湾日本関係協会(台湾側)にそれぞれ改称されている。)

CRSに基づく自動的情報交換の実施時期に関するコミット状況

別紙2

(令和7年(2025年)1月1日現在)

2017年に初回交換(49か国・地域)		2018年に初回交換(51か国・地域)		2019年に初回交換(2か国・地域)	2025年以降に初回交換(10か国・地域)	
アイスランド	スロバキア	アゼルバイジャン	(中)マカオ*	ガーナ	アルメニア(2025)	ルワンダ(2025)
アイルランド	スロベニア	アラブ首長国連邦*	チリ	クウェート*	ウガンダ(2025)	カメルーン(2026)
アルゼンチン	セーシェル	アンティグア・バーブーダ*	(丁)グリーンランド		セネガル(2025)	モンゴル(2026)
イタリア	大韓民国	アンドラ	ドミニカ国*	2020年に初回交換(4か国・地域)		パプアニューギニア(2027)
インド	チェコ	イスラエル	トリニダード・トバゴ	オマーン*	モロッコ(2025)	パラグアイ(2027)
英国	デンマーク	インドネシア	トルコ	ナイジェリア	初回交換時期未定(43か国・地域)	
(英)アンギラ*	(丁)フェロー諸島	ウルグアイ	ナウル*	(仏)ニューカレドニア*	アルジェリア	チャド
(英)英領バージン諸島*	ドイツ	オーストラリア	ニウエ	ペルー	アンゴラ	トーゴ
(英)ガーンジー	ノルウェー	オーストリア	日本	2021年に初回交換(3か国・地域)		ドミニカ共和国
(英)ケイマン諸島*	ハンガリー	(蘭)アルバ	ニュージーランド	アルバニア	ウズベキスタン	ナミビア
(英)ジブラルタル	フィンランド	(蘭)キュラソー	バーレーン*	エクアドル	エジプト	ニジェール
(英)ジャージー	フランス	(蘭)セントマーティン*	パキスタン	カザフスタン	エスワティニ	ハイチ
(英)ターコス・カイコス諸島*	ブルガリア	カタール*	パナマ	2022年に初回交換(2か国・地域)		パラオ
(英)バミューダ*	ベルギー	カナダ	バヌアツ*	ジャマイカ	カーボベルデ	フィジー
(英)マン島	ポーランド	クック諸島	バハマ*	モルディブ	ガイアナ	フィリピン
(英)モンセラット*	ポルトガル	グレナダ	バルバドス	2023年に初回交換(3か国・地域)		ブルキナファソ
エストニア	マルタ	コスタリカ	ブラジル	タイ	カンボジア	ベトナム
オランダ	南アフリカ共和国	サウジアラビア	ブルネイダルサラーム*	モンテネグロ	北マケドニア	ベナン
キプロス	メキシコ	サモア*	ベリーズ	ヨルダン	ギニア	ベラルーシ
ギリシャ	ラトビア	シンガポール	マーシャル諸島*	2024年に初回交換(4か国・地域)		ボスニア・ヘルツェゴビナ
クロアチア	リトアニア	スイス	マレーシア	ウクライナ	グアテマラ	ボツワナ
コロンビア	リヒテンシュタイン	セントクリストファー・ネイビス	モーリシャス	ケニア	コートジボワール	ホンジュラス
サンマリノ	ルーマニア*	セントビンセント及びグレナディーン諸島*	モナコ	ジョージア	コンゴ共和国	マダガスカル
スウェーデン	ルクセンブルク	セントルシア	レバノン*	モルドバ	コンゴ民主共和国	マリ
スペイン		中華人民共和国	ロシア		ザンビア	モーリタニア
		(中)香港			シエラレオネ	リベリア
					ジブチ	レソト
					ジンバブエ	
					セルビア	
					タンザニア	

(注)1 下線は日本との間におけるCRSに基づく自動的情報交換の実施対象国・地域(112か国・地域)。

2 *は日本からCRS情報の提供を行わない国・地域(25か国・地域)である。